

殺菌灯のご注意

殺菌灯の効果と特性

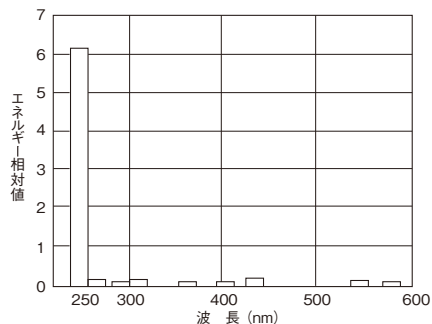
●東芝殺菌ランプと特性

殺菌線(253.7nm)を最も効率良く放射するよう、特殊殺菌線透過ガラスを使用していることと、ガラス内面に蛍光体層がないこと以外は、一般照明用蛍光ランプと同じです。

図4は殺菌ランプGL15の分光エネルギー分布を示します。特殊ガラスの使用により、殺菌線が紫外・可視域の放射の約90%を占めています。水銀のもう一つの共鳴線である波長185nmの紫外線は、ほとんど放射されないように設計されています。

(この波長185nmの紫外線は空気中の酸素をオゾンに変える作用があり、あまり強く放射するとオゾン量がふえて、その毒性の問題が生じる恐れがありますが、ごく少量のオゾンは防臭の効果があります)

図4. 殺菌ランプGL15の分光エネルギー分布



●直管スタータ形

大きさの区分	形名	希望小売価格(円)(税別)	寸法(mm)		質量(g)	口金	定格ランプ電力(W)	ランプ電流(A)	紫外線出力(W)	紫外線放射強度(μW/cm ²)	定格寿命(h)	適合点灯管	適合電子点灯管
			管径	管長									
6形	GL6	1,650	15.5	210.5	21	G5	6	0.147	1.7	19	4,000	FG-7E FG-7P	FE7E
10形	GL10	2,000	25.5	330	58	G13	10	0.230	2.7	29	6,000	FG-7E FG-7P	FE1E FE7E
15形	GL15	2,500	25.5	436	71	G13	15	0.300	4.9	51	6,000	FG-1E FG-1P	FE1E

注) 1. 殺菌ランプより放出される紫外線(殺菌線)は有害で、点灯中にランプを短時間見つけただけでも後で眼が痛くなり、結膜炎に似た症状を起こしますので、直接殺菌ランプを見ないでください。反射光も目に入らないように目を保護してください。(目の痛み視力障害の原因)。また、この紫外線(殺菌線)は皮膚にとっても有害です。(皮膚の炎症を起こす原因)
2. 室内の空気殺菌には、必ず専用器具を用い、ご使用上の注意を良く読んでお使いください
3. 紫外線放射強度はランプから1m離れた距離における値です。
4. 紫外線の影響により、周辺の樹脂等の劣化は、一般のランプより早まります。



警告

- 点灯中のランプは絶対に直接肉眼で見ないでください。また、反射光も目に入らないようにしてください。(眼の痛み・視力障害の原因)
- 紫外線(殺菌線)を皮膚に直接または、間接に当てないでください。(皮膚の炎症・日焼けの原因)
- 取り付け、取り外しや器具の清掃のときは、必ず電源を切ってください。(感電・眼の痛み、視力障害や皮膚の炎症の原因)
- 眼の痛みや皮膚の炎症がある場合には、必ず専門医の診断を受けてください。



注意

一般照明用には絶対使わないでください。

殺菌灯器具ご使用上の注意

1. 殺菌線は皮膚や眼に強い刺激を与え、炎症を起こす場合があります。ランプを直接見る場合には、必ずメガネをかけるかガラスを通してください。また皮膚にも長時間の照射はおやめください。
2. ランプが直接見えなくても、天井・壁に反射率の高い材料(アルミニウム・ステンレス・白色プラスタなど)を使用しますと、その反射によって上記と同様の現象を起こすことがありますのでご注意ください。(消灯いただくか、防護服・防護メガネ等で保護してください)
3. 人が連続して作業される環境の場合は、消灯いただくか、防護服・防護メガネ等で保護してください。
4. 赤ちゃんのように皮膚の弱い人がいる場所では使用しないでください。
5. 点灯中の殺菌線出力は、点灯によるガラスの劣化等により、ガラス管の透過率が悪くなります。寿命時間以上点灯しても初期の殺菌効果が得られませんので定期的にランプを交換してください。
6. ランプや反射板がほこりや油煙で汚れますと殺菌効果が著しく低下します。常に清掃を心がけてください。
7. 殺菌線は虫には無効です。また植物は紫外線に敏感です。殺菌線により葉がしおれてしまうことがありますのでご注意ください。
8. 点灯する時に、多少オゾンが発生するため臭う場合があります。体に悪影響はありません。
9. 樹脂パネルを有する照明器具などと併用される場合は、殺菌線がパネルに当たらないように設置してください。パネル劣化の原因となります。
10. 殺菌線を直接受けると塗装面や樹脂面、壁紙や布地などが変色、劣化したり、食品に直接照射しますと酸化臭が着く場合がありますのでご注意ください。
11. 一般に植物は殺菌線に対して敏感です。弱い殺菌線でも葉がしおれてしまうことがありますのでご注意ください。